学びスクエア　NIE 考えるいま・未来

進路の「水先案内」に活用

教育に新聞、そして新聞社を役立ててもらおうというのが「ＮＩＥ」です。主要な活動の一つが社員が学校に出向く「出前授業」で、授業のテーマは学校と相談して決めます。最近は「ＳＤＧｓ」の要望が増えていますが、職業講話とも言い換えられる「キャリア教育」も定番です。今年度はすでに世田谷区立太子堂中学校、神奈川県立厚木高校、同県藤沢市立高浜中学校で実施しました。

授業は「キャリアの『水先案内』できるかも」と題して、子どもたちの関心が高い将来の進路や職業選択に資する記事を朝日新聞でどう見つけていくのかをまずアドバイス。続いて朝日新聞社や新聞記者の仕事について説明する構成です。

最近は日常的に新聞に触れる子どもたちが減っているので、漫然と読むだけでは朝刊１部あたり新書1.5～２冊分相当と言われる情報量の多さに溺れてしまいかねません。読み方のアドバイスで心がけているのは、朝日新聞という情報の大海原で、目指す記事にまっすぐたどり着ける目印を知ってもらうことです。「キャリア教育」では月曜朝刊掲載の「働く」面をはじめ、土曜別刷り「ｂｅ」掲載の「フロントランナー」、月曜夕刊掲載の「凄腕（すごうで）しごとにん」や「発創カンパニー」などのコーナーが多様な職業や人生、企業を取り上げていて参考になるはずです。こうした目印があれば新聞に目を通すことも苦にならなくなるのではないでしょうか。受講生からは「新聞は大人のためのものだと思っていたけれど、社会で活躍中の人のインタビューなど、将来について考えている私たち高校生のためになる内容がたくさんあることがわかり、もっと読もうと思いました」という感想が寄せられました。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。